服飾学部

4年間の流れ

服飾学科

TECHNOLOGY BUSINESS

服飾表現学科

PRESENTATION

服飾文化学科

CULTURE

入学

出願時に<モードテクノロジー系>または<ファッションビジネス系>のどちらかの系統を選びます。1年次は、服飾における造形技術とビジネスの基礎を学びながら、自分の適性や将来の目標を見定め、2年次からの専門教育課程で学ぶコースを選択します。

- モードテクノロジー系
- ファッションビジネス系

1年次は、全員が服飾造形を初歩から体系的に学びながら、写真やデザインなど表現の基礎知識を修得します。2年次前期には入門授業「服飾表現演習」で、4つの専攻分野をオムニバス形式で実践体験し、後期から専攻分野ごとの学びを進めていきます。

「歴史」「レプリカ製作・修復」「衣のものづくり」「サスティナビリティ」の4つの分野を総合的に学びます。
※コース選択はありません

1年次 初年次教育課程

全学科共通の　必修科目

服飾学科独自の基礎科目

服飾表現学科独自の基礎科目

服飾文化学科独自の基礎科目

2年次〜4年次 専門教育課程

（2年次進級時）コース選択 ※系統をまたいだコース選択も可

- ファッションビジネス・流通イノベーションコース　デジタル消費者の視点からビジネスの未来を動かす
- ファッションビジネス・マネジメントコース　広範なファッションビジネスの実践力を追究する
- ファッションプロダクトデザインコース　アイデアをカタチにするすべてを究める
- テキスタイルデザインコース　素材を生かし表現を生地に映し出す
- インダストリアルパターンコース　デジタル技術を活用して快適な服を設計する
- モードクリエーションコース　知識・技術・感性を磨いて世界を目指す

（2年次前期）4つの専攻分野をオムニバス形式で実践体験

（2年次後期）将来の進路や目標に合わせて専攻選択

- メディア表現　多彩なメディアでファッションの魅力を表現
- VMD（ビジュアルマーチャンダイジング）　視覚に訴える空間演出を行う
- スタイリング　被写体の魅力や個性を引き出す
- 衣装表現　美しく映える衣装をデザインする

- 衣のものづくり　伝統技術の継承と発展
- サスティナビリティ　人・環境にやさしい服
- 歴史　世界・日本のファッション史
- レプリカ製作・修復　歴史・民族衣装の再現製作・修復

2〜4年次の　共通必修科目・専門選択科目

卒業研究　（制作または論文）

卒業後の進路

- クリエーター
- デザイナー
- ソーイングスタッフ

- パタンナー
- モデリスト
- ソーイングスタッフ

- テキスタイルデザイナー
- テキスタイルプランナー

- バッグ、アクセサリー、靴などのデザイナー
- プランナー

- マーケティング
- プロモーション企画
- 商品企画
- 生産管理
- MD
- バイヤー
- 店舗開発
- ブランド開発

- EC担当者
- ネットショップ運営者
- WEB・SNS担当者
- プレス
- ファッションアドバイザー

- 衣装デザイナー

- スタイリスト

- VMD
- MD

- 映像作家
- 映像ディレクター
- ショースタッフ
- イベント制作スタッフ
- ファッションエディター

- アパレル企業全般
- 国内外の大学院進学
- 学芸員
- 研究職　など

進学　（ファッションデザイン専攻科、大学院、留学）

資格課程

教職課程－中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭）※服飾学科のみ

学芸員課程

NEW

ファッションに必要不可欠なメイク技術を学べます！

前期：「ビューティ・メイクアップ術A」／後期：「ビューティ・メイクアップ術B」

2026年度より、1・2年次の選択科目として新たに開講します。前期は大学生として身につけるべきスキンケアからナチュラルメイクについて学び、後期は社会人としての基本メイクと流行のポイントメイクについて学びます。実践的に行うことで、美容とメイクの基礎知識と技術を身につけることができます。

PICK UP 授業

「マーケティング・データサイエンス論」

社会のインフラやサービスのデジタル化が進む中で、ファッション業界でもデータ分析を踏まえたマーケティングが重要になっています。2年次の全学科必修科目として取り入れている「マーケティング・データサイエンス論」は、データを読み解くための基礎知識をはじめ、アパレル企業においてもデータに基づいて未来を予測するスキルや活用事例を学び、AI（人工知能）の導入を生かした次世代のビジネス力を養います。2024年度から表計算をビジュアル化したSalesforce社の分析ツール「Tableau（タブロー）」を授業内で使用しています。ビジネス現場で広く導入活用されており、社会で役立つ知識となります。